

つたざわ



学校教育目標

わくわく学び
いきいき挑戦する
児童の育成

『学力』を定着させるために 学習推進部

あれだけ暑かった夏が過ぎ去り、涼しい心地の良い風が吹いてきました。食欲だけでなく、学習に取り組みやすい季節となりました。

さて、私たち教師は「学力」を子どもたちに定着させるために、日々授業を行っています。時には楽しく盛り上がりのある授業を行ったり、時には静かに黙々と問題を解かせたりして、さまざまな方法で授業を行っています。また、蔦沢小学校では「オープンクラス」という呼称で、教師同士がお互いのクラスの様子や授業の様子を自由に参観し、お互いにアドバイスできるようにしています。

しかし、子どもたちに「学力」を定着させることはなかなか難しいことです。子どもたちは日々新しい課題に取り組み、新しいことを覚えていきます。しかし、その一方で、過去に学んだことを忘れていくことも多いです。せっかく学んだことを日々忘れていってしまう。「人間だもの……」とはいえ、学習したことを忘れないようにするにはどうすればよいのか考えてみたいと思います。

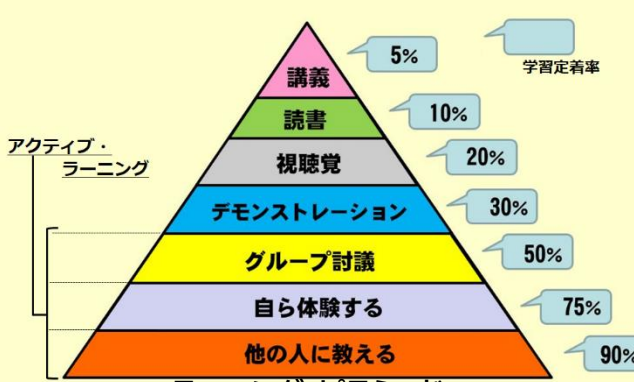
① 時間を空けて再度復習する

学習したときは誰でも覚えていたものです。ただし、時間がたつにつれ、その学習を使わなくなるといつか忘れてしまうものです。パソコンの操作も教えてもらった時にはできていたのに、使わないとすぐにできなくなってしまう。過去に学習した内容を定期的に復習しましょう。

② 学んだことを誰かに教える

学んだことを誰かに教えることによって、記憶に残り定着するようです。下のアメリカ国立訓練研究所の研究によるラーニングピラミッドを見てわかるように、「自ら体験する」「他の人に教える」ことは、高い学習定着率となっています。しかし、話を聞くだけの「講義」だけでは、なかなか定着しないことがわかります。

例えば、保護者の方が子どもに「覚えてたことを教えてくれる？」と生徒役になって尋ねてみて下さい。子どもたちは張り切って先生役になって教えてくれるでしょう。さらに子どもたちに、教えてもらったことをほめてあげて下さい。



秋の夜長、読書のおすすめ



保護者の皆様には、毎月の「親子読書」へのご協力をいただき、ありがとうございます。一冊の本をとおして、家族団らんのひとときを楽しんでいただければ幸いです。

さて、十月二十七日(木)～十一月九日(水)までの二週間は、全国的に「読書週間」となっています。因みに「公益社団法人 読書推進運動協議会」が公募している本年度の読書週間標語は、「この一冊に、ありがとう」です。

本校では、地域の皆様に学校読書ボランティアとして、「お楽しみ読書」(学年ごとの読み聞かせ活動)をお願いしており、読書を習慣化し、子どもたちが読書に親しむ態度を育むのにより環境

ができています。

秋の夜長、ご家庭でも一緒に本を読む時間をもたれてはいかがでしょうか。自分を変えてくれるような一冊との出会いを求め、さまざまなジャンルの本に触れることが、子どもたちの豊かな心づくりにつながることを願っています。

稲刈りをしました

九月二十九日に、老人クラブの皆様、地域の皆様のおかげで、無事稲刈りを終えることができました。

今年は、約270kgのもち米が獲れました。給食で使わせていただきます。ありがとうございます。



オープンスクールについて(地域の皆様にご案内)

兵庫県では十一月を「兵庫の教育推進月間」に設定し、オープンスクールの取組を進めています。これは、「県民すべてがかかわる兵庫の教育をめざして」のテーマのもと、保護者の皆様、地域の皆様の参画と協働を得ながら、地域に開かれた学校づくり・魅力的な学校づくりを進めることをねらいとしています。

本校もその取組の一環として、「蔦沢小学校オープンスクール」を計画しています。特に本年度につきましては、新校開設に伴い、きれいに改修された校舎や学校施設をはじめ、学校の様子や子どもたちのありのままの姿を見ていただき、本校の取組に対するご理解を深めていただく機会にしたいと考えております。皆様方には、公私ともにご多用のこととは存じますが、ご来校いただき、学校及び児童の様子をご覧いただきたく存じます。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によつては、来校者について制限をさせていただく場合や急遽予定を変更することも考えられます。より多くの皆様にご来校いただきたいのが本意で

10月後半の行事予定

- 18日(火) 移動図書館来校
5年ストレスマネジメント教室
スクールカウンセラー来校
- 20日(木) 4年しそ森林の探検隊
- 21日(金) 就学時健診 外国語指導員来校
2年校外学習 教育実習修了
- 24日(月) 出前ふれあいコンサート
- 25日(火) 4年しそ森林の探検隊
- 26日(水) 読書ボランティア来校
- 28日(金) ALT 来校
- 31日(月) 歯科教室(1・2・3年)



11月前半の行事予定

- 2日(水) 読書ボランティア来校
- 3日(木) 文化の日
- 4日(金) 歯科教室(4・5・6年)・ALT 来校
- 5日(土) アルミ缶回収
- 11日(金) PTA 本部役員会・理事会
外国語指導員来校
- 15日(火) 移動図書館来校・SC 来校

☆オープンスクールの日程☆

- 11月17日(木) 午前の授業参観
(3・4時間目) 10時40分～12時15分
 - 11月18日(金) 午後の授業参観
(5・6時間目) 13時45分～15時20分
- ※保護者の方への案内は、後日配布します。

- ① ご家庭で検温をしてお越しください。また、体調のすぐれない場合は来校をお控えください。
- ② 校舎来賓用玄関で受付を用意しております。住所とお名前をご記入いただきますとともに、手指の消毒とマスクの着用をお願いします。また、スリッパ等の上履きをご持参ください。
- ③ 児童が、学習活動に集中して取り組むため、校舎内でのスマホ等による写真・動画の撮影並びにSNSへの投稿は、お控えください。

はございますが、児童の安全・安心を最優先したいと考えておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。また、お越しの際は、次のことについて厳守をお願いします。

読書感想文 入賞作品

「こころはどこかな」

一年生



ぼくは、こころがどこにあるかしりたくなったので、『こころってどこにあるのしょう』というほんをよみました。このほんは、みんなのこころが、からだのどこにあるのかなというおはなしです。

ぼくがこのほんをよんで、いちばんこころにのこったところは、かたちはわからないけど、からだのいろんなところにこころがあるから、うれしいことがあるとからだじゅうのこころがよろこんで、からだじゅうにちからがわいてくるということです。

ぼくは、しゆくだいをするときにおなかがいたくなる場合があります。だから、こころはおなかにあるとおもいます。ゆうがた、そとであそんでいるときにごはんのいいにおいがすると、はながひくひくしてきゅうにおなかがすいて、おうちにかえりたくなるので、こころは、はなにもあるとおもいます。きょうだいげんかをしたときは、ぼくのかおもおとうとかおまっかになるし、なかなかおりをしたときは、ふたりともにこのかおになるので、こころはかおにもあるとおもいます。おかあさんと、てをつないだら、あったかくなるし、たのしくなるので、こころは、てにもあるとおもいます。ぶれぜんとをもらったときは、「やったあ。」といってばんざいをしてびよんびよんとびはねるので、こころは、くちとあしにもあるとおもいます。

ぼくのこころも、からだのいろんなところにあるとおもいます。だからぼくは、からだぜんたいで、たくさんのおもちゃをかんじることができんだとわかりました。こころってほんとうにすごいです。

ぼくは、これからいろんなことをがんばって、からだといっしょにこころもどんどんつよくおおくしたいです。

「みずとはなんじゃ」

三年生

今まで水についてよく考えたことがなかったのに、この本を読んで考えてみようと思い、この本をえらびました。

水がない生活を想像してみました。朝起きてはをみがき、顔をあらいます。もし朝から水がないとこまります。お風呂にも入れません。水がないと今わたしたちがしている生活はできないと思いました。

ずっと前に、テレビで生活しているところに水がない外国の町の番組を見たことを思い出しました。近くに水がないので、遠くまで水をくみに行く女の子がいました。とてもたいへんだろうなと思いました。わたしは、水にこまることがないので、しあわせだなと思いました。今から水をむだにしないようにシャワーの水の出しっぱなしに気をつけようと思いました。

人間の体は、七十パーセントが水なんだとお母さんから聞いたことがあります。人間には水がひつようなんだと思いました。

水が人間や動物の口から入って、体の外に出るまでの水のはたらきをはじめて知りました。夏になるとあせをよくかくので、水分ほきゅうが大事だとよく分かりました。

そして、人間や動物だけじゃなく、植物も水がひつようで、生き物にとって水はなくてはならないものだと思いました。

地きゅうはほかの星とちがって、水がたくさんあります。その水は、地きゅうにとってクーラーであったり、ふとんであったりするので、地きゅうは水のはたらきでまもられていると分かりました。

この本では、水をにん者、役者、りよう理人、医者にたえてせつ明をしているのでとても分かりやすかったです。

にん者のようにすがたが消えて見えなくなった人、役者のようにすがたをかえたり、りよう理人

のようにえいようを食べやすく体に運んだり、医者のようにびよう気をふせいだりするそうです。このようにたとえられていることをわたしは、まさにその通りだと思いました。

この本のおびには、「学校がすすめる三・四年」とかいてありましたが、全文ひらがなで書いてありました。もつと小さな子でも読んで、水のことをべん強でできると思いました。弟にも読んであげようと思いました。

この本を読んで、水の大切さがよく分かりました。これからもよごさないようにして、水を大切にしようと思います。

「あきらめない心」

四年生



『青いスタートライン』どんなお話だろう、青いスタートラインって何のことだろう、表紙の海の絵がとてもきれいだなど、とても読みたくなりました。

この本の中で心に残ったことは、プールでも二十五メートルしか泳げなかった颯太が、大会に向けて練習を重ね、一キロメートルもある海のコースを泳いだことです。颯太が「もうだめだ。」と思っていた時、少し前で泳いでいた子がリタイアしたことがぼんやりと見えて、「リタイアしても、ぼくだけじゃない。」と頑張ってしまっただけで、「自分で泳ぐと決めたからがんばろう。」と思い直して、最後まで泳ぎ切りました。私だったら、リタイアしていたと思います。きっと、大会に出てみようと思っていた戦すらなかったと思います。颯太の心がすごく強いということを感じました。それは、水泳を教えてくれた夏生くんや受験に向けてがんばっているいとこのあおいやあおいの友だちやたくさんの人といっしょにすすす中で、強くなっていたのだと思います。リタイアすることもあきらめてしまいうこともかん単です。苦しい時に、いろいろ考えながら自分で決めていくことが大切だなと思いました。

颯太に水泳を教えてくれた夏生くんは、とても悲しい思いをしていました。お父さんとお母さんがどこかに行ってしまった、おばあちゃんとくらしているということ。魚を遊んでいるお父さんのことが大好きな夏生くんは、お父さんのことをずっと思い続けていました。お父さんといっしょに海に出ることをずっと思っていたのだと思います。だから、お父さんが夏生くんのために東京で仕事をしていたと分かって、ゆるせなかったのだと思います。わたしが夏生くんの立場だったら、同じようにゆるせなかったと思います。ほったらかしにしておいて、今さら東京に来いはないだろう、帰ってきて漁に出ようと、はらを立てているでしょう。だれにもないしよとお父さんが使っていた船の上で一ばんすごしたとき、むちゃくちゃいっぱい考えたと思います。はらを立てても、お父さんのことが大好きだから、いっぱい我慢したいと思います。そんな夏生くんの様子を見て、颯太は何も言わず、近づけませんでした。きっと、ぼくが口出しすることではないと思ったから、立ちつくすことしかできなかったのでしょう。本当は、助けてあげたい気持ちでいっぱいだったと思うし、大会に向けて、夏生くんにはそばにいてほしいとも思っていたと思います。短い時間の間に、颯太と夏生くんは気持ちがつながっていたんじゃないかと思っています。

颯太も夏生くんもおおいも、夏休みの間に自分の目ひようをしっかり見つけていました。そして、それに向かっているみたいです。私はソフトボールチームに入っています。今、ライトを守っています。セカンドをまもりたいです。練習していると時にはしんどいこともあるけど、夢に向かって進んでいきます。

